

連携提案: 特別な支援が必要な児童・生徒の早期からの学習支援

キーワード: 幼児期, 学齢期, きこえの困難, 発達障害, 通常学級, 学習支援

臨床・健康教育学系 准教授

小林 優子 Kobayashi Yuko

連携提案内容と効果

◎小学校や中学校における特別な支援が必要な児童生徒は就学前の幼児期から発達における問題などが表れていることが多く、早期から認知・言語・運動・社会性などの包括的なアセスメントが必要です。

◎LDが疑われる児童は、周産期の要因(低出生体重児など)や幼児期中耳炎の罹患など、就学前に影響が表れている可能性があります。

◎特に、中耳炎の罹患や注意機能の障害から聴覚情報処理の困難につながり、「先生の指示を聞いても理解できない、覚えられない」「文章の理解が苦手」という問題につながることも示唆されています。

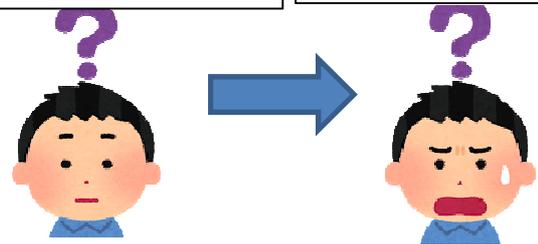
◎効果的な学習支援を行うために、心理学や神経科学などの視点からアセスメントを行うことが重要です。

<周産期・幼児期の要因>

- ・視覚情報処理障害
- ・注意機能の障害
- ・協調運動の苦しさ
- ・長期間の中耳炎罹患など

学齢期には・・・

- ・読み書きの困難
- ・雑音下での聞き取り困難
- ・音声の指示理解の困難



低出生体重児などの発達におけるハイリスク児や、中耳炎の長期罹患、片側難聴など幼児期に見過ごされがちな要因が、学齢期の学習

※早期からの包括的なアセスメントや支援が重

アピールポイント

◎乳幼児期から学齢期における長期的な発達支援の臨床に長く携わり、特に幼児期における、言語・認知・運動・社会性などを包括的にアセスメントする経験を多く有し、研修会の講師も多数行っています。

連携したい分野

- ◎周産期医療にかかわる医療機関
- ◎発達障害やきこえの困難をもつ児童・生徒が在籍する幼稚園・保育所・学校など

研究テーマ: 聴覚情報処理困難および低出生体重児などの認知発達に関する研究

	プロフィール ◎平成20年に筑波大学人間総合科学研究科修了 博士(心身障害学)取得 ◎平成22年より上越教育大学。 ◎資格:公認心理師, 臨床発達心理士 ◎医療機関での心理業務、新潟県教育委員会主催研修会講師など担当	専門分野	心理学
	主な研究内容	◎低出生体重児などのハイリスク児における聴覚情報処理困難と学習支援 ◎聴覚障害と発達障害を併せ持つ児童の学習支援 ◎高等教育機関における障害学生支援	
関連URL			

関連する業績等

- ◎聞こえているのにわからない APD[聴覚情報処理障害]の理解と支援(2016), p98-102, p112-117, 学苑社。
- ◎わかりやすく学べる特別支援教育と障害児の心理・行動特性(2018), p94-103, 北樹出版。
- ◎ADHDを併せ有する聴覚障害児の格助詞の誤用の分析(2018)上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 24, p7-10.
- ◎聴覚障害幼児における環境音聴取の特徴(2019)上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 25, p25-29.

お問い合わせは、 小林 研究室 yuuko@juen.ac.jp